

チャレンジ講座（文系第6回）を実施しました

11月7日（水）に第6回文系チャレンジ講座が、本学福祉健康科学部の村上裕樹先生を講師に迎え、「ようこそ心理学の世界へ」というテーマで行われました。

遠隔配信された国東、高田、大分西、臼杵、別府翔青、安心院、日田、大分雄城台、竹田、大分商業、三重総合、中津南及び来学の大分東明の計13校400名が受講しました。

村上先生が高校生に向けて、心理学の入り口を広く開き、深さを垣間見せてもらった1時間となりました。

心理学に興味のある生徒が集まっただけあり、挙手をしてもらったところ「臨床心理士」の資格を知っている生徒は多かったのですが、新しい「公認心理師」の資格について知っている生徒はわずかでした。大学を選ぶ際、その資格に対応しているかどうかを確認することも必要で、大分大学はもちろん対応している、ということでメモを取るのもさらに熱心になったようです。

まずは、「どちらが大きく見えるか」など二つの絵を比べたり、逆さまにした絵を見たり、と錯視を実感していききました。手を挙げて答えて、正解を提示されると驚きと感嘆でどよめく教室でした。

また、「どんな人を好きになるのか？」は高校生にとって関心のある問いです。そこから単純接触効果や吊り橋

体験での錯謬帰属という現象を説明。用語を少し知ったところで、さまざまな防衛機制についての話。そして、心理療法の分類、さまざまなアプローチや心理学の近接領域、心理学と職業まで興味深く話は広がっていききました。

最後に、心理学は身近な出来事から出発しながらも人間全体につながる学問であり、心理学のものの見方を知ること、自分や他者をより深く知ることにつながり、これからの人間関係に生かされると高校生にメッセージを送りました。

講義後のアンケート調査では、「総合的に判断して授業がよかった」（98%「そう思う」と「どちらかとい

えばそう思う」の合計。以下同じ）、「教員は真剣に取り組んでいた」（100%）、「受講生は授業に意欲的に取り組んでいた」（99%）という結果でした。遠隔配信については、「音声はよく聞こえた」（92%）、「映像はよく見えた」（95%）という結果が出ました。受講生の主な感想として、「心理学の中に様々な分野があり、また関係する学問分野が多岐にわたることが分かり関心が高まった」「楽しい授業だった」といったものが寄せられました。

